

|   |  |
|---|--|
|  | <p style="text-align: center;"><b>保育科 教授</b></p> <p style="text-align: center;"><b>川上 琴美 (かわかみ ことみ)</b></p> <p style="text-align: center;"><b>Kawakami Kotomi</b></p>              |
| <p>自己紹介 (プロフィール)</p>  | <p>幼稚園教諭を経て保育者養成に 30 余年携わっています。身体表現が研究テーマで、子どもからトップアスリートまで、“楽しく”をモットーにしております。フィギュアスケートやダンススポーツ選手の表現指導では、世界で通用する選手育成を行っています。また、保育現場や施設等、地域においても実技実践を通して、より豊かな表現活動を目指し、活動しております。</p> |
| <p>学生へのメッセージ</p>  | <p>貴重な学生時代に、チャンスがあれば何事にもチャレンジし、自分らしさを確立してください。授業は勿論のこと、課外活動にも積極的に参加し、有意義な学生生活を過ごし、人とのかかわりを大事にしましょう。心身の健康第一に気をつけましょう。</p>   |
| <p>保有学位</p>   | <p>修士 (スポーツ科学) 日本女子体育大学</p>  |
| <p>保有資格・免許</p>  | <p>幼稚園教諭二種免許状<br/>文部大臣認定競技力向上指導者上級資格 (スケート・エアロビック)<br/>日本レクリエーション協会公認指導者資格 (レクリエーション・インストラクター)</p>   |
| <p>研究分野</p>   | <p>身体表現<br/>保育内容 (体育)<br/>運動学</p>  |
| <p>現在の研究テーマ</p>   | <p>身体表現に関する研究 (単独)<br/>保育現場における「体育活動」に関する研究 (共同)</p>   |
| <p>主な担当科目</p>   | <p>体育実技 (A-フィットネス)・(C-氷上のスポーツ)<br/>保育研究 (身体表現) &lt;専&gt;<br/>体育科教育研究&lt;専&gt;</p>  |
| <p>学内での活動</p>   | <p>学生総合支援委員会委員<br/>就職・キャリア支援委員会委員<br/>社会体験講座 (I・II)</p>  |
| <p>学外での活動</p>   | <p>山梨県スケート連盟普及部 研究部長 (S61~)<br/>日本スケート連盟強化スタッフ フィットネスコーチ (H12~)<br/>日本オリンピック委員会強化スタッフ (H13~)<br/>全国大学スケート研究会常任理事 (理事長 H13~23)<br/>日本ダンススポーツ連盟 テクニカルアドバイザー (H14~)</p>               |
| <p>所属学会</p>   | <p>日本保育学会<br/>日本運動学会<br/>日本体育学会</p>  |

主な職務実績 (抜粋)

| <p>事項<br/>(単独・共同)</p>  | <p>年月日</p>    | <p>概要</p>   |
|--|---------------|---|
| <p>(国際競技会役員)<br/>世界ジュニア選手権フィギュアスケート大会役員：日本オリンピック委員会 (JOC) 強化スタッフ</p> | <p>H15.10</p> | <p>世界ジュニア選手権フィギュアスケート大会において、全日本選抜選手の監督兼コーチを務めた。本大会において、全日本女子選手 3 名が、1 位から 3 位まで独占した。<br/>特に、4 回転ジャンプに挑戦した安藤美姫選手の評価は高く、表現力についても高得点を得ることができた。コーチとしての責務を果たすことができた。</p> |

|  |              |   |
|--|--------------|---|
| (文部科学省委託事業)<br>体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動のあり方に関する調査研究事業<br>—文部科学省委託事業—<br>(共同) | H22.2        | 平成20年より文部科学省委託事業として、Y市は子どもの体力低下傾向にある現状改善のため就学前の幼児期に、運動に親しみ基礎体力を培うため、調査研究に取組んだ。幼児の運動量2割増を目標に、講師として活動に参加した。子どもと保護者対象に実践テーマを設定し、実技や講習会を実践した。2年間の取組みの結果、運動への意欲、運動能力、体力それぞれに向上がみられ、病欠幼児が激減したと、研究園での結果を得ることができた。(遊び指導、アイススケート等担当) |
| (社会教育・公開講座)<br>県民コミュニティーカレッジ 山梨学院短期大学<br>地域ベース講座(単独)                         | H22.9～<br>10 | 「みんなで楽しく運動体験—2世代・3世代コミュニケーション—」をテーマに、全4回の講座を実施した。世代間交流をはかり、相互の理解を深め、楽しい運動体験をすることにより、運動意欲の向上と運動習慣の体得を目指した。安全で楽しい日常生活を営むことのできるよう、年齢や体力、健康状態に合わせた運動の方法を実践した。参加者が目的を理解し、楽しく動き、次の講座開催の要望が出た。                                     |
| (教員研修会)<br>山梨県幼稚園等新規採用教員研修会  | H24.8        | 研修の目的「幼稚園及び特別支援学校の新任教員に対して、幼稚園等の教育水準の維持向上を図るため、現職研修の一貫として、その職責の遂行に必要な事項に関する研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させることを目的とする。」に則し、県内の幼稚園等新任教員を対象に「リズム運動と身体表現—みんなで楽しく—」をテーマに講演を行った。  |

### 主な教育研究業績(抜粋)

| 著書、学術論文等<br>(単著・共著)   | 年月日   | 発行所、発表雑誌、<br>発表学会等  | 概要   |
|---|-------|---|--|
| 生涯スポーツ指導の<br>効果性開発・向上過<br>程からの示唆に関す<br>る一考察(共著)   | H17.8 | 第15回国際女子<br>体育連盟<br>(IAPEGSW)会議カ<br>ナダ・エドモン<br>トン、アルバータ大<br>学 | さまざまなジャンルにまたがる生涯スポーツの日本の指導者を対象に、定性的調査を実施した。参加者との交流・指導という取組みが、プラスをもたらす点について①自らのクオリティーオブライフを高める。②運動・スポーツを続けることが、人生に「生きる力」を与える。指導者の役割が如何に重要であるか、今一度指導者自身が見据え、熟考する必要があることが明らかになった。   |
| 表現・ダンス授業研<br>究：幼稚園・小学校<br>の表現運動：芸術系<br>スポーツの表現活動<br>～メソッド「も・け<br>い・そう・そう」の<br>実践を通して～(単<br>著) | H22.2 | 女子体育<br>Vol.52-2<br>「変わる力探る指<br>導者の力—変わる<br>もの変わらないも<br>の—」   | 幼稚園や小学校において、表現運動の表現者である子ども達が、楽しく運動し、意欲的に表現できる指導法を探求してきた。その経験の積み重ねから、環境設定の重要性に着目し、筆者なりの指導方法を創案した。この指導方法は、指導者と表現者が互いにより良いコミュニケーション及び運動共感を喚起する者である。この方法は、フィギュアスケートやダンススポーツのトップアスリート達にも実践しているものである。                            |
| 改訂アイススケーテ<br>ィングの基礎(共著)   | H23.1 | アイオーエム出版  | スケート教本として、準備運動から滑走までの留意点や動きのこつを具体的に示した。基本技術が正しく修得できるように、イラストを用い滑走技術の説明を示した。<br>1 滑る前に 2 氷に立ってみよう 3 転び方と起き方<br>4 足踏みから歩行 5 歩行から両足惰力滑走 6 ひょうたん滑走 7 両足惰力滑走から片足惰力滑走 8 ストローク滑走 9 カーブ 10 スネーク 11 ストップ<br>(PART 1 STEP3 さあ滑ろう 担当) |
| 未就園児と保護者を<br>対象とした表現活動<br>の実践(共著)   | H23.4 | 日本保育学会<br>第64回大会<br>PA-064                                    | 市民講座の「F市・大学連携講座」において、未就園児とその保護者を対象に表現活動の実践をした。母親の感想及び担当者との討議を通して、親子で実施する表現活動の課題を明らかにし、育児の悩みに対する解消方法についても考察した。さらに、行政と地域社会における子育て支援についても検討した。未就園児とその保護者を対象とした表現活動は、楽しく身体を動かし、仲間づくりができる有用な体験であったことを明らかにした。                    |